	連絡協議会 （参加者数を含む）	3.高次脳機能障害者支援推進委員会＆症例検討会 平成 20 年 11 月 30 日（日） 参加者 18 名
	家族支援等 その他	1.鹿児島県支援センター リーフレット「はじまりました　高次脳機能障害者の支援」の作成及び配布 2.鹿児島県「高次脳機能障害者受けいれ機関一覧」 （医療機関、保健所、各種施設、他）改訂版（全 73 頁、無料）の 作成と発行、配布（当事者、関連医療施設、行政関係機関、希望者、他）
事業課題		1.鹿児島県高次脳機能障害者支援センターの事業の広報と組織の充実 2.行政の窓口担当者の（自己）研修 3.支援ネットワークの充実

沖 縄 県

平成20年度事業実績		
支援拠点（協力）機関名		医療法人へいあん　平安病院 総合相談室（医療相談係・心理療法係） 〒901-2553 沖縄県浦添市経塚 346 番地 TEL：098-877-6467（内線 230・237）
相談支援 コーディネーター （職種）		波平　智雄（医師） 赤嶺　洋司（臨床心理士） 新垣　香織（精神保健福祉士） 伊井　統章（精神保健福祉士）
事業内容	相談事業 （件数を含む）	相談件数 697 件 相談実人数 140 人 相談件数 4 月　54 件（面接 34 件/電話 17 件/その他 3 件） 5 月　45 件（面接 26 件/電話 17 件/その他 2 件） 6 月　42 件（面接 26 件/電話 12 件/その他 4 件） 7 月　39 件（面接 20 件/電話 14 件/その他 5 件） 8 月　36 件（面接 22 件/電話 12 件/その他 2 件） 9 月　49 件（面接 36 件/電話 8 件/その他 5 件） 10 月　87 件（面接 45 件/電話 28 件/その他 14 件） 11 月　69 件（面接 35 件/電話 31 件/その他 3 件） 12 月　75 件（面接 50 件/電話 24 件/その他 1 件） 1 月　115 件（面接 42 件/電話 66 件/その他 7 件） 2 月　52 件 3 月　34 件（3 月 11 日現在） 主に精神保健福祉士が受け、診療報酬に関わりのない相談を集計しております。今回、沖縄県の担当から、相談実績報告の考え方のレクチャーを受け、平成 21 年 1 月より 2 拠点で統一した相談件数の計上を行っております。その為、前月までと平成 21 年の 1 月で若干件数が変動しております。

	研修事業 （参加者数を含む）	1.高次脳機能障害講演会「支援と治療」 平成 20 年 8 月 23 日（土）午後 1 時～5 時 浦添市 てだこホール 小ホール 参加人数 330 名 拠点病院での取り組み・・・全国と沖縄県の現状とこれから 高次脳機能障害者の薬物治療・・・精神科薬物療法 「脳損傷 親として、医師として」 納谷敦夫 「高次脳機能障害をみ（見・診・看）る ～認知障害とは何か～」 宮森孝史 「精神神経疾患における高次脳機能障害と認知リハビリテーション」 松井三枝 2.高次脳機能障害公開講座 沖縄市 沖縄市民会館 中ホール 平成 21 年 1 月 17 日 午後 12 時 30 分～16 時 参加人数 352 名 「生活を支える高次脳リハビリテーション」 橋本圭司 公開リハビリテーション「集団認知行動プログラム 羅心盤」
	連絡協議会 （参加者数を含む）	H19 年度地域生活支援事業 沖縄県高次脳機能障害支援普及事業報告会 平成 20 年 6 月 25 日 14 時～15 時 30 分 沖縄県総合福祉センター 研修室 69 名参加 主催：沖縄県障害福祉課・ 沖縄リハビリテーションセンター病院 平安病院
	家族支援等 その他	1.拠点病院連絡調整会議 1） 拠点病院間の役割や課題を話し合う。 2） 事業内容（講演会、リーフレットなど）の検討 3） 県障害福祉課担当者との意見交換 開催回数 月 1 回（H21 年 2 月 2 日現在、10 回開催） 参加者数 12 名 2.精神保健福祉士協会 定例会 1） 高次脳機能障害について精神保健福祉士に出来ること 2） 拠点病院の役割 3） 高次脳機能障害とは 開催回数 1 回 平成 20 年 4 月 26 日

		沖縄県総合福祉センター 研修室 3.こころの芸術パネル展 1） 高次脳機能障害の普及 2） 拠点病院の役割 3） 高次脳機能障害支援普及事業について 開催回数 1 回 平成 20 年 12 月 15～19 日（5 日間） 糸満市役所 4.精神保健福祉士会 機関誌 PSW の眼 H20 年 5 月号 高次脳機能障害支援普及事業について 記事掲載 5.高次脳機能障害勉強会「地域における生活支援」 1） 拠点病院の役割 2） 精神科医療・福祉制度の活用 開催回数 1 回 平成 20 年 12 月 13 日 宮古保健所 28 名参加 6.高次脳機能障害講演会 「小児の高次脳機能障害の理解と支援 ー就学支援や発達障害との違いなどー」 主催 平安病院 助成 損保協会 『小児の高次脳機能障害 ～理解と支援～』 栗原まな 『小児の高次脳機能障害 ～支援の実際～』 斎藤敏子 『小児の高次脳機能障害の理解と支援 ー発達障害等との関係で就学支援を考えるー』 太田令子 開催 1 回 平成 20 年 12 月 6 日 沖縄県総合福祉センター ゆいホール 参加者数 210 名 7.高次脳機能障害 支援機関一覧 発行 平成 20 年 12 月
	事業課題	沖縄県では、平成 19 年 9 月より支援普及事業が開始されている。本県では、身体科領域の回復期リハビリテーション病院と精神科領域の精神科病院の 2 拠点方式を採択した。この採択理由には①行政的な高次脳機能障害は精神科領域とされているが、受傷原因は事故等が多く、最初に搬送される病院は身体科領域であること、②感情や行動の問題などで精神科の治療や援助が必要な方が少なくないことがあり、身体・精神両領域の支援が必要であると考えたからである。全国的にみて、リハビリテーション領域では治療や支援のシステムが検討されているが、精神科領域の関与は進んでおらず、敷居が高いからと当事者、家族のみ

ならず、医療福祉関係者においても二の足を踏んでいる現状があった。しかし、様々な治療や援助の方策をしっかりと検討し、どのようなことが精神科領域で出来るのかを検討することが非常に重要であると考えた。

本年度までに沖縄県では、自立支援や手帳、年金をはじめとした精神科領域における高次脳機能障害者への支援を県や社会保険庁、精神保健福祉センターなどと協力して確立してきた。また、精神科における治療も外来治療、入院治療、社会復帰施設、授産施設、デイケア、委託就労訓練など様々な治療の形が出来つつある。当事者も敷居は高いとは言え、事業が始まって1年4ヶ月あまりの間に140名以上の方々が通院や入院しながら治療や支援を受けられている。今年までは、他県の先進的に取り組んでいる講師の先生方に講演などを依頼して高次脳機能障害の普及にご協力いただいたが、今後は離島の多い本県の特徴も考えながら、各圏域ごとに地域支援の形を模索していく取り組みにシフトしていきたいと考えている。その為、地域ごとに連絡会や事例検討会を開催することが来年度の地域支援の課題である。また、各拠点病院が行っている専門的な治療や支援について各圏域にあるリハビリテーション病院や精神科病院に対して同様の治療と支援が行えるように研修会を開催していきたい。このように各地域、各圏域でしっかりと医療と地域福祉を充実させ、普段着の医療と福祉で高次脳機能障害者をサポートできる体制を整えたいと考えている。

厚生労働科学研究費補助金　こころの健康科学研究事業

平成２０年度　総括研究報告書

高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究

分担研究者　太田令子
千葉県千葉リハビリテーションセンター
地域連携部長

研究要旨
千葉県では今年度から２つの支援拠点機関が活動を始めた。これまで支援拠点機関としてモデル事業から参画し、培ってきた医学的評価・診断および対応する支援プログラムを整理して新規機関に伝えていく活動が加わり、従来の各プロジェクトでは、各コーディネーターのもと、これまで支援拠点機関として蓄積してきた実績を目的に応じた形に加工および整理していく作業を始めた。

A．研究目的

以下のことを実施することでネットワークが具体化することを目的として、本研究を実施した。

(1)モデル事業以来、千葉県の支援拠点機関として蓄積してきた神経心理学的検査法の結果および訓練プログラムをデータベース化していくこと、(2)小児においては昨年度までに作成した各種支援の効果を確認する作業および小児においては評価しにくかった遂行機能に行動評価質問紙について、健常児値作成のための調査を実施(3)社会復帰・生活支援においては支援後に効果測定を実施し支援プログラムの妥当性を検討すること、(4)地域支援においては当該障害者の生活圏域で支援機関となりうる事業所とともに当該障害者支援のプログラムを作成すること。

B．研究方法

各目的別に以下の作業を進める。(1)データベース化の初期作業として、ファイルメーカーでデザインされた各種検査結果を、入院患者から入力を開始。(2)病棟アセスメントシートの使用と学校支援後６ヶ月家族アンケートの実施およびこれまでの訓練プログラムの目標別整理。(3)当事者・家族も含めた評価会議を開催し、変化を確認しあう場とする。(4)処遇困難者を抱える施設職員と拠点機関専門職員および関係機関との合同症例検討会を継続的に開催し、中間的に市民公開報告会を開催する。

C．研究結果

(1)入院患者に引き続き、外来患者においても年度内にほぼ入力完了。部分的に入力の仕方が異なっていたりすることもあり、随時会議で修正確認し、スタッフ全体に周知作業を繰り返した。小児と成人のデータは電子カルテ導入を待って統合。(2)今年度新たに BRIEF（こどもの遂行機能行動評価質問紙)日本版開発研究を実施。私立幼稚園１校、公立小学校１校、公立中学校３校、公立および私立高等学校２校の計７校の協力を得て、健常児の調査を終了。 病棟アセスメントシート、学校支援後６ヶ月家族アンケート等、各種支援の効果測定を継続実施および各種訓練プログラムの目的別整理の継続。(3)施設の新体系移行を控え、これまでのプログラムを機能訓練・生活訓練・就労移行支援の各事業に整理し直した。就労支援に関しては、更生園退所後も地域支援事業者と共同で就労定着のための支援者会議を開催してきた。(4)地域生活支援事業者での支援困難者への援助に関しては２ヶ所で継続検討会を開催し、うち平成 20 年度５月に市民報告会開催したのが１ヶ所。他に県との協働事業を実施している高次脳機能障害者のサポートボランティア事業に協力し、事業全体及び県民報告会への協力。その他市町村窓口と協力して支援検討会を開催したのが２ヶ所。当事者・家族と共同で、福祉施設(高次脳機能障害者の日中活動の場を提供)での受け入れ拡大を図るためのパンフレット作成活動実施。アンケート調査およびパンフレットへの掲載許可を得るための訪問説明活動を実施。パンフレットは 5000 部を年度末に印刷予定。

D．健康危険情報

特に無し。

平成 20 年度千葉県高次脳機能障害支援普及事業実績(平成 21 年 1 月 31 日現在)

1．支援拠点機関事業実績

実績分類	成人				電話相談のみ	地域支援		小児				更生園				支援者合計	
	入院		外来					入園		外来		入園		外来			
実施月	実人数	延人数	実人数	延人数		実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
H20.4 月	67	1517	79	94	6	4	4	3	49	27	64	38	854	13	28	237	2616
H20.5 月	64	1540	59	68	20	3	3	2	50	20	48	36	820	15	44	219	2593
H20.6 月	65	1509	68	82	22	2	3	1	16	14	38	35	876	14	22	221	2568
H20.7 月	66	1528	72	88	18	2	2	2	56	28	75	37	938	15	30	240	2735
H20.8 月	56	1288	90	106	19	3	3	2	55	31	79	38	856	16	34	255	2440
H20.9 月	54	1145	90	106	23	1	1	2	50	30	86	39	931	15	36	254	2378
H20.10 月	52	1207	93	102	20	3	4	3	78	24	66	40	1055	20	52	255	2584
H20.11 月	54	1164	90	95	18	2	2	3	75	22	58	41	995	30	52	260	2459
H20.12 月	57	1322	82	91	19	2	2	4	88	28	59	44	1086	16	33	252	2700
H21.1 月	62	1574	96	101	16	1	1	5	98	24	59	46	1168	18	40	268	3057
H21.2 月	57	1351	98	102	25	4	4	5	116	20	47	42	1122	27	42	278	2809

電話相談のみ：機関の紹介や制度に関する情報提供・相談のみで、外来等につないでいないもの

更生園：肢体不自由者更生施設入園者

実人数：当該月で支援した実人数

延べ人数：当該月で支援した延べ人数。ただし、入院(園)者は、1 日に数種の支援をしても在院(園)日数を延べ人数とする。

＊掲載した実数は千葉県全体ではなく、県支援拠点機関である当センターのみの実績である。

相談室ソーシャルワーカー受付相談の内訳

	SW 受付の相談元内訳			
	当事者	医療機関	行政	その他
H20 年 4 月	110	22	11	26
H20 年 5 月	81	8	4	28
H20 年 6 月	100	23	16	44
H20 年 7 月	76	21	9	34
H20 年 8 月	69	9	11	15
H20 年 9 月	82	14	18	40
H20 年 10 月	81	18	11	38
H20 年 11 月	82	20	2	15
H20 年 12 月	65	5	9	30
H21 年 1 月	57	9	9	27
H21 年 2 月	73	9	3	38

＊数値は延べ件数を示す

当センターでは高次脳機能障害に関する相談は、第一義的に相談室ソーシャルワーカーにおいて受け付けられ、内容によって関係各部署と協議されるシステムである。従って相談室ソーシャルワーカーが受け付けた相談者の内訳が当センター全体の内容を反映していると考えられる。

上記実績の電話相談件数は本表の一部である。

2．プロジェクト・班別実施事業項目
以下に当センターで実施した各事業について報告する。

全体事業推進：地域連携部

千葉県・県支援拠点機関・地域支援拠点機関の三者連携会議：平成20年7月24日
高次脳機能障害者支援パンフレット(福祉施設版)作成：当事者・家族会と共同委員会開催
①一次調査実施(郵送にてアンケート調査)
②二次(訪問聞き取り)調査を家族会と共同で実施
コーディネーター会議主催：実績統計を取るためのフォーマットを作り、記載基準の確認作業
65歳以上の高齢頭部外傷者の実態調査：全国都道府県医療機関のある36支援拠点機関へのアンケート調査実施。25機関から回答(交通事故による高次脳機能障害等研究委員会「高齢者頭部外傷における高次脳機能障害」研究への協力事業)

広報・啓発班：地域連携部

事業内容：広報活動と研修会開催
主としてホームページの作成と更新
研修等のイベント広報(含：千葉懇話会H20年9月16日県内医療機関職員等62名参加
・市町村職員対象の研修平成21年2月9日開催：67名県内45市町村から参加
・損保協会助成講習等平成20年12月14日開催：223名の参加者の計画と実施)
交流会の企画および開催(平成21年3月14日開催：98名の参加者)
「こ～じのう」掲示板：3回／年発行
事業報告書作成：執筆規定作成、印刷

市町村相談支援班：地域連携部＋障相センター

事業内容：障害者相談センターの市町村職員研修会に講師派遣
市町村行政窓口からの依頼に応じて職員派遣(平成20年度2市町村)
地域生活支援事業者と共同で、処遇困難者の症例検討会(2事業所)

地域生活復帰支援プロジェクト：医療施設＋更生園

事業内容：医学的リハから社会的リハへの切れ目のない支援プログラムの実施
・医療施設入院中または外来訓練中から更生園の利用を視野に入れた支援計画を作成。20年度新規入園者のうち高次脳機能障害を有する利用者３３名、そのうち２９名の方が連続した支援の展開によって入園につながった。
・10月より医療施設から入園者を対象にOTによる集団プログラムを開始。
ⅰ．活動性を高める目的のレクリエーション10名、週2回
ⅱ．集団活動にて障害の気づきを深める目的の5名ずつ、2コマ各週1回
・4月よりコミュニケーション障害者を対象としたSTによるグループ訓練を開始
地域生活を目指した支援プログラムの効果判定と家族支援→グループホーム利用可能な基準作りの支援プログラム作成
家族交流会を実施→家族４５名、利用者２７名、退園された家族4名の計７６名参加。
ＳＳＴプログラムの実施→10月より週1回4名対象者に実施
VAIC(生活クラブ・ボランティア活動情報センター)による、「高次脳機能障害者の社会参加“ボ　ランティアはじめの一歩”」への協力：講師派遣、実習指導、支援プログラム作成に関わるコ　ンサルテーション等→公開報告会(2月22日、「プラザ菜の花」にて開催)73名参加

事業内容：各種評価や訓練に移行する基準が明確でなかったので、確認作業をスタッフ内で進める
・高次脳評価セット実施に関する基準作り(各検査結果と流れについて)
・外来受診時に評価の流れの確認
・結果を書面で報告のフォーマット作成
評価・訓練実績の確認と評価実施分担部署の再検討
昨年度作成したフォーマットに検査結果データ記載するルール作り(データベース)
・当該障害を持つ成人利用者の確定作業(対象者確定)
・結果を入れる手順の確認と点検

支援内容及び方法の調整と必要に応じて地域関係機関とのケア会議の開催
病棟勉強会(リハ担当医師も全員参加で評価バッテリーの勉強会7回開催のべ187人参加)
当事者・家族(配偶者グループと親グループ)のためのグループ訓練の継続

小児高次脳リハプログラミングプロジェクト：愛育園

事業内容：外来通院児に対する高次脳機能障害カンファレンスの開催
(地元で訓練ができるように、地元医療機関に評価結果を報告し、必要に応じて訓練方法などのアドバイスをする。)
小児病棟用アセスメントシートの使用
こどもの遂行機能行動評価質問紙**の健常児データ371データ収集**(幼稚園58名、小学校128名、中学校89名、高等学校96名)。日本損害保険協会交通事故医療特定課題研究助成を受け、平成20年10月から平成22年9月までの2年間の研究として進められる。
小児リハプログラムの整理、障害別訓練プログラム集作成
これまでの社会復帰支援(学校訪問等)の効果判定：家族へのアンケート調査
学校教職員との連携：学校訪問や連携会議の開催
家族支援：交流会を年2回開催(1回は年度末の全体交流会の一部として開催)
外来児童のグループ訓練実施(特にソーシャルスキルトレーニングを訓練目的として実施)

就労移行支援プロジェクト：更生園＋医療施設

事業内容：社会生活リハ支援の検討(主として更生園または医療施設外来利用の当該障害者)→福祉就労など地域社会資源の開拓を行った。
障害評価と支援の効果判定・支援内容の検討→他の就労支援機関へつなぐことを意識して障害者職業総合センターから示された就労移行支援チェックリストの活用を開始
→社会生活能力評価表の更新
支援内容及び方法の整理と就労関係機関とのケア会議の開催と家族支援
→多様な障害像の利用者に対応する必要から、職業総合センター開発のトータルパッケージ以外に、軽作業や屋外作業、対人サービスの経験のプログラムを工夫し実施した。

センター利用者生活実態定期調査：成人リハ＋支援コーディネーター

当センター利用者への定期的（当面隔年実施）生活実態調査：3月13日当センター生命倫理審査会にて審査を受けその後実施。

部門別集計票:団体対応

	日付	会・雑誌等の名称	発表題名	発表者名
講演・シンポジウム	6月10日	千葉市育成会	高機能自閉症と高次脳機能障害の理解と支援について	太田令子
	6月15日	船橋市介護福祉士会	高次脳機能障害の理解と対応について ～認知症理解の手がかりとして～	太田令子
	6月22日	高次脳機能障害者と家族の会「東葛菜の花」例	高次脳機能障害の理解と対応について	太田令子
	6月24日	障害者職業総合セン	障害特性と職業的課題III　身体障害と高次脳機能障害	太田令子
	8月24日	岡山リハビリテーション講習会(損保助成)	千葉県の小児に対する高次脳機能障害支援普及事業の取り組みと見えてきた課題	太田令子
	9月13日	平成20年度職業リハビリテーション実践セミナー(第1回)	高次脳機能障害コース 就業支援における連携Ⅱ	太田令子
	9月16日	高次脳千葉懇話会	当センターでの高次脳機能障害の神経心理学的検査の結果について～WAIS-R・WAISⅢと他の検査との関係	大塚恵美子
	9月28日	静岡高次脳機能障害リハビリテーショ講習会(損保助成)	高次脳機能障害者の地域生活支援	太田令子
	10月1日	旭神経内科リハビリテーション病院院内研修	当センターにおける高次脳グループ訓練	大塚恵美子
	10月30日	八千代医療センター	高次脳機能障害支援普及事業について	太田令子
	11月24日	主催:NPO法人日本脳外傷友の会 共催:後天性脳損傷の子どもをもつ家族の会 アトムの会　高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会　ハイリハ	後天性脳損傷の子どもを支援するシンポジウムー支援コーディネーターの立場からー	太田令子
	11月29日	柏市平成20年度高次脳機能障害講演会	高次脳機能障害を考える ～地域で支える仕組み～	太田令子
	12月6日	医療法人へいあん平安病院	「小児の高次脳機能障害の理解と支援　―発達障害等との関係で就学支援を考える―」	太田令子
	2月9日	千葉県障害者中央相談センター障害者福祉研	市町村担当職員研修「高次脳機能障害者の支援について」	森戸崇行
	2月17日	障害者職業総合セン	障害特性と職業的課題III　身体障害と高次脳機能障害	太田令子
	2月20日	高次脳機能障害支援普及事業支援拠点機関等全国連絡協議会平成20年度公開シンポジウム	シンポⅠ若年高次脳機能障害者と就学「成人対小児発達障害対高次脳機能障害」 「小児支援の課題」	荏原実千代 太田令子
	2月22日	主催：NPO法人生活クラブ・ボランティア活動情報センター 共催：千葉県	高次脳機能障害者のボランティア活動を紐とくーそこから見えてくることは？ー「高次脳機能障害とボランティア活動～障害理解から支援の意味の理解へ～」	大塚恵美子
学会・雑誌等	11月19～20日	高次脳機能障害学会	脳腫瘍後に重篤な記憶障害を呈しながら過去を振り返る作業を通して不安傾向が改善した一症例	稲月幸子他
			高次脳機能障害患者のアウェアネス障害の程度と心理的ディストレスの関連について	鎌田かおり他
			体幹部の人格化を認めた右頭頂葉出血例	川上貴弘他
			当センターでの高次脳機能障害の神経心理学的検査の結果について～WAIS-R・WAISⅢと他の検査との関係	大塚恵美子他
	3月15日	日本リハビリテーション連携科学学会	「失語のある子どもたちの復学に関する検討」	廣瀬綾奈他

厚生労働科学研究費補助金　　こころの健康科学研究事業
平成２０年度　分担研究年度報告書（岐阜県）
「高次脳機能障害者に対する支援ネットワークの構築に関する研究」
（H１８－こころ－一般－００８）

分担研究者

社会医療法人厚生会木沢記念病院
独立行政法人自動車事故対策機構中部療護センター
岐阜大学大学院医学系研究科脳病態解析学分野（連携）
篠田　淳

研究要旨

岐阜県における高次脳機能障害者支援ネットワークの構築と高次脳機能障害について医療従事者・行政関係者・当事者家族の理解を深めるための普及啓発を目的とし、高次脳機能障害支援普及事業と連動して、支援対策推進委員会の設置・支援コーディネーターによる相談支援・研修会の開催を行った。

A．研究目的

1．岐阜県における高次脳機能障害者支援ネットワークの構築

2．高次脳機能障害について医療従事者・行政関係者・当事者家族の理解を深めるための普及啓発

B．研究方法

岐阜県および岐阜県精神保健福祉センターが高次脳機能障害支援普及事業を実施し、支援拠点機関を岐阜県精神保健福祉センターとする。また、木沢記念病院を支援病院とし、精神保健福祉センターと連携して、相談支援や普及啓発活動を行うこととする。

1．高次脳機能障害支援対策推進委員会の設置

高次脳機能障害者支援の推進を図るため、関係機関や有識者による委員会を設置し、高次脳機能障害の普及啓発および関係機関の連携方策を検討する。

2．支援コーディネーターによる相談支援

支援コーディネーターが当事者家族や関係機関職員に対して、支援拠点機関・支援病院・小規模作業所において、電話または面接により専門的な見地から相談支援を行う。

3．普及啓発事業

高次脳機能障害に関する普及啓発のために、医療従事者・保健師・市町村職員・一般県民に向けた研修会や講演会を行う。

C．研究結果

1．高次脳機能障害支援対策推進委員会の設置・開催

平成19年6月に関係機関や有識者に委員を委嘱し、平成19年9月5日に平成19年度第1回の委員会を開催した。支援ネットワークの構築にあたり、具体的に県内のどの機関が支援機関になりうるか、どのような働きかけが必要かを検討した。平成20年9月3日に新たな委員を加えて平成20年度第1回会議を開催した（**表1**）。第2回会議を平成21年3月9日に開催し、「岐阜県高次脳機能障害支援センター（仮称）」構想について議論し、同構想の実現に向けて、本案を県へ要望することを全会一致で可決した（**資料1**）。

2．支援コーディネーターによる相談支援

支援拠点機関、支援病院等での相談・受診件数を**表2**に示す。

1）支援拠点機関・精神保健福祉センターでの相談支援

精神保健福祉センターでは普及事業に関わる担当職員を平成19年度から1人増員し、事業関連の業務に当たるとともに、センターへの電話相談に対応した。また、支援病院との連携も行った。

① 精神保健福祉センターへの電話相談

電話相談は平成20年4月から平成21年2月までで9件であった。相談があった際には必要に応じて支援コーディネーターの相談日を案内し、センターの職員から支援コーディネーターに連絡がなされた。

② 専門相談窓口

支援コーディネーターは支援病院である木沢記念病院に所属しており、毎月1回支援コーディネーターが精神保健福祉センターに出向いて相談を受ける日を設けている。平成20年4月から平成21年2月までに精神保健福祉センターで行なった面談は15件であった。前年度からの継続相談のケースも多かった。

2）作業所での相談支援

支援コーディネーターの小規模作業所かけはし西岐阜への訪問を本年度も継続した。訪問時には毎回2人の通所者やその家族に個別面談を実施し、平成20年4月から平成21年2月までに22件の面談を行った。個別面談の後は指導員とケース会議を行ったり作業所の状況を聴き取ったりした。

3）支援病院・木沢記念病院での支援コーディネーターの活動

支援コーディネーターは支援病院において、当事者や関係機関からの電話問い合わせに随時対応する他、脳外科外来への受診の調整をしたり、関係機関との連携を図ったりした。また、ケースによっては予約制で個別面談を行った。加えて、高次脳機能障害の訓練に関わるOT・STと、リハビリ通院しているケースの検討や情報交換を定期的に行った。

外来受診者、電話相談、検査、面談件数は前年とほぼ同数であった。

表3は平成19年4月から平成21年2月までに支援病院にて主に電話で受けた新規相談ケース数とケースの詳細な情報である。このうち平成20年度(平成20年4月～平成21年2月)のケース数は昨年度と同数であった。年齢は20代～50代の就業世代のケースが多く、今年度は19歳未満の就学年代の新規の相談はなかった。性別では男性、原因疾患は交通事故を始めとする頭部外傷が多い傾向には変化はみられなかった。

3．普及啓発事業

1）支援普及事業支援拠点機関・支援病院・岐阜県医師会・日本損害保険協会が主催あるいは助成し、以下の研修会および講演会を開催した。

① 高次脳機能障害普及啓発リハビリ担当者向け研修会

平成20年12月14日（日） 県民ふれあい会館

「高次脳機能障害のリハビリテーション」

星城大学リハビリテーション学部講師

藤田高史

「岐阜県における高次脳機能障害の相談状況について」

木沢記念病院臨床心理士

宇津山志穂

リハビリ担当者など約85名が参加

② 平成20年度岐阜高次脳機能障害フォーラム

平成21年1月31日（土） 県民ふれあい会館

第1部 岐阜県高次脳機能障害支援講演会

「高次脳機能障害の支援ネットワークの形成と三重モデルの紹介」

静岡英和学院大学人間社会学部准教授

白山靖彦

「就学、就労、在宅支援に関わって」

木沢記念病院言語聴覚士リハビリテーション課長

豊島義哉

第2部 岐阜脳リハビリテーション講習会

「高次脳機能障害の地域生活を支援する ー家族として、精神科医としてー」

なやクリニック院長、元大阪府健康福祉部長/大阪府障害福祉事業団理事長

納屋敦夫

「体験談　－ある当事者の3年間－」

木沢記念病院臨床心理士

宇津山志穂

医療福祉関係者・当事者家族など約170名が参加

③　平成20年度岐阜県医師会高次脳機能障害支援対策事業研修会

平成21年2月14日(土)　岐阜県医師会館

「高次脳機能障害支援の過去と未来」

国立障害者リハビリテーションセンター学院長

中島八十一

「岐阜県の高次脳機能障害支援普及事業について　－行政的な立場から開業医に向けた説明－」

岐阜県精神保健福祉センター長

丹羽伸也

医師・看護師約70名が参加

2）普及啓発パンフレットの作成

高次脳機能障害を県内の行政機関、医療機関、福祉施設等に広く知ってもらうため平成18年度に作成した普及啓発パンフレット「高次脳機能障害の理解おために　～高次脳機能障害とは？～」を平成20年11月に改訂し配布した。

3）支援実態調査

今後の支援ネットワーク構築に生かすために高次脳機能障害者の県内施設の利用状況の把握する目的で県内福祉施設を対象にアンケート調査を実施した。結果は平成21年度に報告予定。

D．健康危険情報

特になし

E．研究発表

1）著書

1.　奥村　歩: 音楽で脳はここまで再生する　－脳の可塑性と認知音楽療法－. 人間と歴史社, 東京, 2008

2）論文発表他

1.　奥村　歩, 篠田　淳: FDG-PET. 意識障害の診断と治療　－reappraisal－. Clinical Neuroscience 26: 653-655, 2008

2.　岡　直樹, 奥村　歩, 篠田　淳: 拡散テンソルMR画像を用いた高次脳機能障害の評価. 意識障害の診断と治療　－reappraisal－. Clinical Neuroscience 26: 659-661, 2008

3.　松本　淳, 奥村　歩, 篠田　淳: 鍼治療. 意識障害の診断と治療　－reappraisal－. Clinical Neuroscience 26: 676-677, 2008

4.　Matsunaga M, Isowa T, Kimura K, Miyakoshi M, Kanayama N, Murakami H, Sato S, Konagaya T, Nogimori T, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J, Ohira H: Associations among central nervous, endocrine, and immune activities when positive emotions are elicited by looking at a favorite person. Brain Behav Immun 22: 408-417, 2008

5.　Ohira H, Isowa T, Nomura M, Ichikawa N, Kimura K, Miyakoshi M, Iidaka T, Fukuyama S, Nakashima T, Yamada J: Imaging brain and immune association accompanying cognitive appraisal of an acute stressor. Neuroimage 39: 500-514, 2008

6.　奥村由香, 奥村　歩, 岡　直樹, 豊島義哉, 篠田　淳: 交通事故の頭部外傷による脳機能障害に対する認知音楽療法. 日本音楽療法学会誌 8: 13-24, 2008

7.　丸石正治, 上野弘貴, 近藤啓太, 澤田　梢, 橋本優花里, 本間　緑, 荒谷康彦, 道上裕史, 澤近雅之, 村中博幸, 宮谷真人, 中尾　敬, 今泉　敏, 篠田　淳: 高次脳機能障害に対するリハビリテーション評価法：ファンクショナルMRIと拡散テンソル画像を用いて. 広島県立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能センター研究報告書. 2008

8.　篠田　淳: 平成19年度岐阜県高次脳機能障害支援事業報告. 厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業　－高次能機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究－（H18-こころ-一般-008)」平成19年度 総括・分担研究報告書. 2008, pp143-149

3）学会発表他

1. Okumura A, Shinoda J, Yamada J: The clinical evaluation of regional cerebral blood flow change during music therapy for persistent consciousness disturbance. The 1st Asian Oceania Conference of Physical and Rehabilitation Medicine. Nanjing, 2008.5.16-19
2. Ohira H, Nomura M, Matsunaga M, Isowa T, Kimura K, Kanayama N, Murakami H, Osumi T, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: Functional association of brain and somatic activities accompanying reverse learning. Human Brain Mapping 2008. Melborne, 2008.6.15-19
3. Ohira H, Nomura M, Matsunaga M, Isowa T, Kimura K, Kanayama N, Murakami H, Osumi T, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J: Functional association of brain and somatic activities accompanying reverse learning. The 48th Annual Meeting of Society for Psychophysiological Research. Austin, 2008.10.1-5
4. Shinoda J (Workshop): Neuroimaging studies and neurorehabilitation at the Chubu Medical Center for Prolonged Traumatic Brain Dysfunction. International Conference of Multidisciplinary Neurotraumatology. Nagoya, 2008.10.30
5. 篠田　淳（特別講演）:中部療護センターの事業紹介. 第1回東海地区遷延性意識障害者と家族の会. 結成記念講演会. 名古屋市, 2008.5.18
6. 篠田　淳（指定発言）: 岐阜県における高次脳機能障害者支援状況. 平成 20 年度第 1 回高次脳機能障害支援普及事業支援拠点機関等全国連絡協議会および厚生労働科研費「地域支援ネットワークの構築に関する研究」全体会議. 所沢市, 2008.7.2
7. 岩井香織, 浅野愛子, 和田哲也, 永瀬友美, 槇林優, 岡　直樹, 篠田　淳: 動作遂行困難な症例に対し錐体路トラクトグラフィーを評価に用いた一例. 第 58 回日本病院学会. 山形市, 2008.7.3-4
8. 竹中俊介（教育講演）: 頭部外傷の診断と画像所見. 平成20年度 第3回研修医のための岐阜脳神経セミナー. 岐阜市, 2008.7.4
9. 奥村　歩（特別講演）: 脳と心の神経画像. 第 3 回名古屋 Meet the Specialist. 名古屋市, 2008.7.4
10. 伊藤　毅（教育講演）: 脳機能局在の基礎知識および神経画像の見方. 第4回岐阜県脳障害リハビリテーション研修会. 美濃加茂市, 2008.7.12
11. 蒲　知香子, 豊島義哉, 平林美樹, 奥村由香, 竹中俊介, 伊藤　毅, 奥村　歩, 篠田　淳: 重度頭部外傷による遷延性識障害離脱後に複数の重度の症状を呈した症例の回復過程. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
12. 豊島義哉, 蒲　知香子, 青木智子, 西村和好, 吉田充千穂, 平林美樹, 奥村　歩, 篠田　淳, 岩間亨: 重度瀰漫性軸索損傷慢性期における発語障害の 1 例. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
13. 奥村由香, 奥村　歩, 豊島義哉, 加藤玲子, 篠田淳: 認知音楽療法　ー音楽により認知機能の再ネットワーク化を図るー. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
14. 加藤玲子, 奥村由香, 奥村　歩, 豊島義哉, 浅野愛子, 小森三代, 伊嶌泰子, 影山裕子, 篠田　淳: 認知音楽療法による運動機能の改善. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
15. 奥村　歩（ランチョンセミナー）: 軽度認知障害に対する薬物療法・音楽療法. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
16. 篠田　淳, 奥村　歩, 伊藤　毅, 竹中俊介: 木沢記念病院・中部療護センターで使用している意思疎通グレーディング. 下呂市, 2008.7.18-19
17. 中山則之, 奥村　歩, 篠田　淳, 岩間　亨: 高次脳機能障害診断における神経機能画像の応用について. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
18. 八十川雄図, 加藤貴之, 奥村　歩, 篠田　淳: 瀰漫性軸索損傷の病態把握における拡散テンソル画像（Diffusion tensor imaging : DTI）の有用性. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
19. 鈴木雅雄, 松本　淳, 八十川雄図, 岡　直樹, 西山紀郎, 加藤貴之, 遠山香織, 奥村　歩, 篠田淳: 交通事故頭部外傷による遷延性意識障害に対する鍼治療の試み. 第 17 回日本意識障害学会.

下呂市, 2008.7.18-19

20. 青木智子, 岩井香織, 浅野愛子, 和田哲也, 槇林 優, 奥村 歩, 篠田 淳: 手指筋緊張亢進に対する試み. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
21. 浅野愛子, 和田哲也, 岩井香織, 槇林 優, 奥村 歩, 篠田 淳: 重度麻痺症例に対する浮力を用いた重力軽減療法の試み. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
22. 大塚誠士, 槇林 優, 星屋慈実, 澤田美由紀, 岩井 歩, 白木大吾, 篠田 淳, 奥村 歩: 左下腿を切断し、右足底接地困難な頭部外傷患者に対する義足を用いた両脚荷重訓練の試み. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
23. 奥村 歩（基調講演）: MRI でみる脳内ネットワーク. 第 17 回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
24. 八十川雄図, 加藤貴之, 奥村 歩, 篠田 淳: 慢性期重症頭部外傷症例に対するバクロフェン髄注療法の1経験. 第17回日本意識障害学会. 下呂市, 2008.7.18-19
25. 篠田 淳（招待講演）: 高次脳機能障害の診断 ―神経画像から見えてきたこと―. 平成 20 年高次脳機能障害講演会大阪. 大阪市, 2008.8.9
26. 篠田 淳（招待講演）: 高次脳機能障害の診断 ―神経画像から見えてきたこと―. 平成 20 年高次脳機能障害講演会愛知. 名古屋市, 2008.9.27
27. 篠田 淳, 奥村 歩, 中山則之, 副田明男, 岩間亨, 中島利彦, 加藤貴之: 神経画像を用いた頭部外傷後高次脳機能障害の評価. 第 67 回日本脳神経外科学会総会. 盛岡市, 2008.10.1-3
28. 宇津山志穂（教育講演）: 岐阜県における高次脳機能障害の相談状況について. 平成 20 年度岐阜県高次脳機能障害普及啓発リハビリ担当者向け研修会 2008.12.14
29. 豊島義哉（教育講演）: 就学、就労、在宅支援に関わって. 平成 20 年度岐阜高次脳機能障害フォーラム. 岐阜市, 2009.1.31
30. 宇津山志穂（教育講演）: 体験談 ―ある当事者の 3 年間―. 平成 20 年度岐阜高次脳機能障害フォーラム. 岐阜市, 2009.1.31
31. 篠田 淳:（指定発言）: 岐阜県における高次脳機能障害者支援 ―平成 20 年度活動報告―. 平成 20 年度第 2 回高次脳機能障害支援普及事業支援拠点機関等全国連絡協議会および厚生労働科研費「地域支援ネットワークの構築に関する研究」全体会議. 東京, 2009.2.20

4）新聞報道

1. 「高次脳機能障害に理解を」 平成 20 年 8 月 5 日、大阪日日新聞朝刊
2. 「高次脳機能障害 ―医療、介護、現場の声―」 平成 20 年 8 月 10 日、大阪日日新聞朝刊

5）テレビ放映

1. 「高次脳機能障害講演会 ―愛知―」プライムタイム. 平成 20 年 9 月 27 日、中京テレビ

表１：岐阜県高次脳機能障害支援対策推進委員会委員

木沢記念病院副院長　中部療護センター長	篠田　淳
木沢記念病院臨床心理士　支援コーディネーター	宇津山　志穂
木沢記念病院リハビリテーション課長	槇林　優
岐阜医療科大学保健学科部教授	阿部　順子
静岡英和学院大学人間社会学部准教授	白山　靖彦
岐阜県医師会常務理事	堀部　廉
松波総合病院リハビリ病棟部長	川口　雅裕
ＮＰＯ法人ぎふ脳外傷友の会長良川理事長	西村　憲一
地域生活支援センターひびき管理者	臼井　潤一郎
岐阜障害者職業センター所長	児玉　義之
健康保健福祉部医療整備課長	平山　宏史
健康福祉部保健医療課長	田中　剛
健康福祉部障害福祉課長	佐藤　昭三
西濃保健所長	出口　一樹
東濃保健所長	久保田　芳則
岐阜総合医療センター脳卒中センター部長	中島　利彦
身体障害者更生相談所長	小林　秀則
精神保健福祉センター所長	丹羽　伸也

事務局

精神保健福祉センター保健福祉課長	可児　広
精神保健福祉センター課長補佐	林　節子
精神保健福祉センター主事	渡邉　鮎美

表 2:平成 20 年度高次脳機能障害支援普及事業　月別・相談場所別相談件数

	木沢記念病院				精神保健福祉センター＜面談＞	かけはし作業所
	外来新患	電話問い合わせ電話連絡	神経心理検査	面接		
平成 20 年 4 月	6	17	12	3	0	2
5 月	2	3	11	4	0	2
6 月	3	8	9	3	2	2
7 月	4	7	6	6	2	2
8 月	3	22	8	2	3	2
9 月	6	15	3	3	2	2
10 月	6	15	15	7	1	2
11 月	3	10	9	4	1	2
12 月	8	7	11	4	1	2
平成 21 年 1 月	5	6	7	4	1	2
2 月	5	15	8	6	2	2
	51	125	99	46	15	22

表3：木沢記念病院における新規相談ケースの詳細（平成19年4月～平成21年2月）

年齢	15歳以下	4
	16～19歳	6
	20代	11
	30代	10
	40代	14
	50代	13
	60代	3
	70代以上	3
	不明	9
	合計	73
性別	男	46
	女	20
	不明	7
	合計	73
居住地域	中濃	14
	西濃	7
	東濃	6
	岐阜	19
	飛騨	7
	県外	12
	不明	8
	合計	73

原因	頭部外傷	43
	脳血管障害	14
	低酸素脳症	3
	その他	5
	不明	8
	合計	73
受傷から	6ヶ月以内	24
	1年以内	8
	1年以上	33
	不明	1
	合計	73
相談内容	受診や診断	35
	訓練	7
	入院や入所	7
	社会復帰	4
	福祉制度	7
	在宅生活	6
	その他	7
	合計	73
電話元	支援病院内	7
	他病院	31
	公的機関	11
	当事者家族	24
	合計	73

資料1

平成21年3月9日

岐阜県高次脳機能障がい支援対策推進委員会からの要望(案)

1. 目的

岐阜県における高次脳機能障害者への支援体制を強化するために、障害者自立支援法の地域生活支援事業(高次脳機能障害支援普及事業)並びに同法訓練等給付(自立訓練)を根拠として、下記の事を答申する。

2. 内容

① 専任の支援コーディネーターの配置

県内の高次脳機能障害者に対する相談ニーズは今後いっそう増加する傾向が伺われ、それに対応するためは専任の支援コーディネーターを1名以上を配置する必要がある。

② 自立訓練施設の創設

県内には、高次脳機能障害者が医療を終えた後に生活、職業などの訓練を行なう場所がない。円滑な地域・社会生活に移行するための拠点施設として自立訓練施設を新たに創設する必要がある。

③ 岐阜高次脳機能障害支援センターの設置

総合的に運営するセンターを新たに設置することではなく、上記①②の事項を総合的に運営する機関に対して、センター名称を付与する。

3. その他

○ 本答申案は、平成21年3月9日に決議し、以降障害者自立支援法における高次脳機能障害者支援普及事業が継続されるまでの間を有効とする。

○ 本答申をもって委員から提案された岐阜県高次脳機能障害支援センター構想案は、廃止し、議事録には、本答申案のみを記録する。

厚生労働科学研究費　こころの健康科学研究事業
「高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究」
平成20年度　分担研究実績報告書

分担研究者　太田　喜久夫　三重県厚生連松阪中央総合病院リハビリテーション科・部長

研究要旨：三重県に高次脳機能障害支援ネットワークを確立させるために三重県高次脳機能障害支援普及事業を継続し、相談支援体制連絡調整委員会会議を 3 回開催した。報告された就労支援帰結成果や研修講演を基に三重県内で支援ネットワーク確立のための活動を行った。

A. 研究目的

三重県内に高次脳機能障害支援ネットワークを確立させるために必要な情報を発信し共有する。また、東海ブロック内での連携を強め、その成果を基に三重県での高次脳機能障害支援普及事業を強化する。

B. 研究方法

高次脳機能障害者の相談支援に対応し、個別性に配慮して最適な訓練や支援が受けられるように支援体制を整備し、その後の帰結結果を検討する。得られた成果をもとに、三重県下での支援ネットワークを強化する。

（倫理面への配慮）

本研究は高次脳機能障害支援ネットワーク確立のための支援が主体であり、原則として個人情報は取り扱わないのでプライバシーが損なわれたり、不利益を被ることはない。また、アンケート調査については、個人調査が必要なときには調査対象者及び家族等から、文書によるインフォームドコンセントを徹底し、被験者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびにいかなる不利益も受けないように十分に配慮した。また、個人が特定できないように格別の注意を払った。

C. 研究結果

平成 20 年度三重県高次脳機能障害支援普及事業における相談件数は電話相談を除き 769 件で、新規相談者実数は 76 名であった。継続的相談者数は 111 名であり、合計 187 名に対して生活・就労・就学支援を実施した。また、相談支援体制連絡調整委員会会議を 3 回開催し、本事業での支援状況の情報を共有し、県内の支援組織や各種団体との連携強化について意見交流を行った。啓発・普及活動においては、高次脳機能障害者地域支援セミナーを 2 回開催し、高次脳機能障害者（児）リハビリテーション講習会を 2 回開催した。その他、静岡県で開催された第 5 回東海ブロック連絡協議会に参加し、三重県での高次脳機能障害者に対する生活・就労支援の現状と成果を説明した。さらに、研修・視察の受け入れや学会発表を通じて三重県での高次脳機能障害支援の成果について情報を発信した。

D. 健康危険情報

該当事項無し

E. 研究発表

学会発表

太田喜久夫：外傷性脳損傷による高次脳機能障害者における CIQ の変化 －生活・職能訓練帰結群と相談支援群との比較 第 45 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2008 年 6 月（幕張）

平成20年度 高次脳機能障害支援普及事業 報告(H21. 3. 10付)
(三重県・三重県身体障害者総合福祉センター)

1. 三重県高次脳機能障害支援普及事業の概要

＜事業実施期間＞

「三重県高次脳機能障害支援普及事業」平成２０年４月１日～平成２１年３月１０日現在

＜実施主体＞　　三重県・三重県身体障害者総合福祉センター

＜概要＞

高次脳機能障害支援普及事業での三重県でのシステムを別名、三重県方式と呼称するが、これは「高次脳機能障害者に対して診断、訓練や生活支援（地域生活）をシステマチック（systematic）に包括的リハビリテーションを行うもの」であり、その実施する高次脳機能障害者包括的リハビリテーションネットワークを三重モデルという。

ア．拠点病院との連携

① 松阪中央総合病院

主に急性期リハを担当し、高次脳機能障害診断・外来による認知リハビリテーション及び三重モデルを通過したケースのアフターフォローを実施している。

② 藤田保健衛生大学七栗サナトリウム

主に回復期病棟における入院治療訓練を担当し、三重県モデルにおいては、入院による認知リハビリテーションを実施している。

イ．三重県身体障害者総合福祉センター(以下「身障センター」)の役割

身障センターでは、臨床心理士を配置し、神経心理学的評価および認知リハビリテーション、職業リハビリテーションを実施している。また、平成１６年度からは高次脳機能障害者（児）支援コーディネーターを配置し、総合的な相談・直接的また間接的な支援、アフターフォローを実施している。機能については、大きく分けて下記の３つになる。

① 県内の高次脳機能障害者(児)からの総合相談窓口

② 医学・生活・社会・職業リハビリテーションを担当

障害者自立支援法の施行にともない、高次脳機能障害者は、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、生活介護での利用となっている。

（総定員　入所４０名　日中活動５９名の通過型訓練施設）

③ 啓発普及

- 高次脳機能障害者地域支援セミナーの開催　年２回実施
- 高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会

（当事者・家族・支援者・医療職対象に平成２０年度２回実施＝日本損害保険協会助成）

- 各関係機関（福祉、行政、学校等）を対象とした研修会の開催協力（随時対応）
- 情報発信　身障センターホームページ　http://www.mie-reha.jp/

ウ．医療機関との連携強化

松阪中央総合病院、藤田保健衛生大学七栗サナトリウムの拠点病院との連携に加え、高次脳機能障害者（児）支援コーディネーターによる訪問面接などを通じて、北中勢地域の急性期病院（三重県総合医療センター、鈴鹿中央総合病院、鈴鹿回生病院）、回復期病院（菰野厚生病院）、精神科病院（鈴鹿厚生病院）、南勢地域の協力病院（大台厚生病院）など、医療機関との連携も拡大している。

2. 相談支援体制連携調整委員会の開催